

# 林 悩 煩 遊

春季彼岸

法要

左記のとおり春季彼岸会法要をお勤めいたします。皆様お誘いあわせの上賑々しく御参詣下さい

三月二十四日（日）

午後一時より

衆僧総供養読経

法話 西原祐治師 西方寺住職

おとき（婦人会の皆様の手作りの

お食事です）

三月十八日から二十四日までお彼岸です。この間お寺もしくはご自宅での読経供養を致します。ご希望の方はご予約ください。

尚二十一日（木）、二十三日（土）

の2日間は、お寺にお参りの方に限り、ご参詣になつた順にお勤め致しますので予約は不要です。

その他の日は住職、副住職共に外に出ていることが多いので必ず時間の予約をお願いいたします。

\*お寺にご遺骨をお預けの方は期間中必ずお参り下さい

春のお彼岸です。とは言ってもこの原稿は2月の初旬に書いているので冬真っ盛り。で、私に限って言えば冬は寒いし暗いしものを考えるにはぴったりの季節です。で、下手な考え休むに似たりと昔から言われながらも妄念妄想が湧き出てくるのです。この冬は、「これから、絵解きをやらなければならぬ」「今こそ絵解きだ」なんて声が頭の\*中に聞こえてくるわけです。「住職大丈夫か？」心配ご無用！いつもの事ですから

「絵解き」とは絵を説明しながら物語を展開していくお説教の方法で七百年ほど前に成立し、のちに「浄瑠璃」「節談説教」「落語」「講談」に展開していきます。紙芝居もその子孫でしょう。浄土真宗には本願寺三代目覚如上人監修の「親鸞聖人御絵伝」があり、昔は報恩講の時に四幅の絵を掛けて順にお話を進めていきました。絵解きは現在も行われておりますが問題はそのお話の部分。当時の本願寺は親鸞聖人のお墓を守るだけが仕事のお寺、親鸞聖人を慕っていたお同行はみな高弟の仏光寺や専修寺に集っていました。そこで覚如は本願寺こそが親鸞聖人の直系子孫の大事なお寺であることを印象付ける為に御絵伝を制作したようです。その為、内容も史実以外、親鸞聖人にある意味神格化（仏格化）したものになっています。どうも昔からその所が好きになれず手を出し

ていませんでした。が、しかし。頭の中の声が言うわけです。「紙芝居いいよな」「音楽いいよな」「やるしかないよな」。「だったら納得できるかたちに変えよう」なんてよせばいいのに思いつく。はじめは人形浄瑠璃みたいなものが頭に浮かぶ早速YouTubeでいくつか見てみるが何を言ってるのかわからない。江戸時代ぐらいいまで残っていた真宗浄瑠璃の台本の資料に当たる、講談も聞いてみる。ピンとこない。ふと、「吟遊詩人」という言葉が浮かぶ。私の好きなファンタジー小説にはよく出てくる。楽器を奏でながら英雄譚や恋愛譚を語る放浪の詩人だ。広義では琵琶法師も含まれるらしい。吟遊詩人についてもあれこれ調べてみる。そのうち古代を舞台にした映画なんかに出てくる朗々と詩を謳うおじさんなんかイメージされ、あー叙事詩ね。で叙事詩なんてものをちらっと読んでみるが詩心のない私には何が面白いのかさっぱり解らない。ともう收拾がつかない状態だ。しかも肝心の内容は史実に基づいてある程度考えようとすると元ネタの「御伝鈔」をかなり整理しなければならぬ。また物語の展開もこのままでは面白くない。で、そこに、親鸞もだけど御絵伝に全く出てこない奥さんの恵信尼はどうだったのか、子供たちはどうだったのか？そっちがメインじゃネ？そういう次第ですごく混沌としてる今日この頃。

お彼岸に思う

悲しきかな、愚禿鸞（ぐとくらん）、愛欲の広海（こうかい）に沈没し、名利（みより）の太山（たいせん）に迷惑して、定聚（じょうじゅ）の数に入ることを喜ばず、真証の証に近づくことを快（たの）しまざることを、恥ずべし、傷むべし、と。

### 【口語訳】

悲しいことに、この愚禿親鸞は愛欲の広い海に沈みこみ、名利の大きな山に踏み惑って、浄土で仏になることが約束された人々の仲間に入ることをうれいとも思わないし、真実のさとりに近づくことを快いとも思わない、恥ずかしいことである、かなしいことである、と。

親鸞聖人のお言葉です。

親鸞聖人は、お浄土へいくことが約束されているという法然上人の教えによつて、これこそ自分が求めていた教えだ、と、一生をお念仏に捧げた方です。ところが、喜ばない、快しめない、恥ずかしいことだ、と嘆じてらっしゃるのです。

平穩無事、平和、安定、満足を一つも良いことだと思えない、そんなわたしたちの心根を代弁してくださっている言葉です。

ここに出てくる「愛欲」とは、好きだ嫌いだ、欲望だの欲求だのだけのことではありません。「わたし」が持っている、価値観、物差し、自我のことです。自分の価値観、考えに固執して、もがき沈み溺れているということです。

「名利の太山」とは、地位だの名誉だの営利だの、そうした目に見える欲望の世界だけのことでありません。私たちの暮らすこの社会そのもののことです。社会的価値観、社会性、情報に振り回されて、そこで自らを失い、何が本当に大切であるのかわからない、そんなわたしです、ということなのです。

自分の価値観すらも、本当は外からの情報に振り回されて作り上げられた曖昧なものであることにも気づかず、その価値観がブレることに気づかず、ブレていないとまで思い込む。そのようないい加減で曖昧な自分であること、矛盾だらけの私であることを厭うがあまり、自信がなく、そんな自分が怖いがため、強がり、吠える。私は間違っていない！と。そうしていきなり、生きていけない、そんな世の中に、社会になつていけるような気がしてならない。怖いし、苦しいし、辛い。それが今の「わたし」の本当の姿なのだということを教えられます。

そして、仏さまは、「大丈夫だよ。その怖いと思つている社会性だの社会的価値感というものの、そのものが幻想でしかないのだから、怖れることはないんだよ。強がる必要もないし、怖いと言つても、辛いと言つてもいいんだよ」と、論じてくださいます。そして、「それでも、不安から抜け出せなく、迷い惑っているのですね。それだからこそ、私はあなたを救わずにはおれないのです」と、聞き分けなく、物分りの悪い人間だからこそ救う、という願いを發ててくださいました。その願いに合う時間がお彼岸です。

「大丈夫だよ」を聞く場所がお彼岸です。

＊おかげさまで卯美美（娘）がこの春から大学生になる。今からワクワクしているようだ。我が子ながら大きくなるのが早すぎるなんて思う。未だに時々小さい頃のイメージで接してしまう。子供にすればきつと鬱陶しいに違いない。大学は通うには少し遠いので抽選に当たれば寮生活となる。寂しくなるな。

＊「撤回します」最近の政治家がよく使う言葉だ。これは国会答弁議事録等に公式に残らないようにする際には有効なのだろうがマスメディアやSNSに出してしまったものは撤回のしようがない。それに撤回する本人が何故撤回しなくてはならないのか理解していないようだ。だから繰り返す。こういう人たちを「おらが村の先生」として選んでしまう私たちも似たようなものか。にしてもマスコミは芸能人が言葉間違えれば社会的に抹殺するまで叩くけど政治家には甘いよね。政治家叩いても視聴率上がらないか。

## 住職

### 住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることがあります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事

です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い致します

定例行事 いずれもご自由にご参加下さい

聞法会 毎月2日夜7時から、「御文」のお話、座談会をやっています（1月、8月はお休み）

歎異抄を読み聞く会「微妙音」 毎月5日午後2時

8月はお休みします（9日は都合により3日）

白色白光の会（婦人会） 毎月第2木曜午後1時

お経（正信偈）の練習と法話と茶話会

「照久会」浄土真宗初めて講座 二月、四月、六月、十月、十二月の第2土曜午後2時より5時まで（参加費 2千円、照久会会員は千円）講師 聞成寺住職 佐竹貫裕師

仏像なぞり書き「仏像描くぞう」

第2水曜午後6時と月の最終日曜日午後3時から

参加費三百円（初回のみ別途テキスト代千円）